

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300481		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	埼玉県本庄市西富田653-1		
自己評価作成日	平成25年 9月 20日	評価結果市町村受理日	平成25年 12月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvsoCd=1174300481-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成25年 11月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている一人ひとりのペースに合わせた対応を行い、その方らしい生き生きとした毎日を過ごして頂けるよう支援しています。
ゆったりとした居心地の良い空間づくりに努めています。
AEDの設置により、緊急時にも対応できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、静かで落ち着いた立地条件のもとで暮らしの場が提供されているため、認知症の高齢者にとって暮らしやすい環境である。事業所内は家庭的な雰囲気が感じられ、ゆったり、ほんわりと時間を過ごすことができる。生活の中の楽しみの一つである「食事」については、調理師免許をもつ職員が中心となり、利用者に合わせて内容で提供されている。献立は利用者が食事を楽しめるように工夫されており、利用者から好評を得ている。災害時、緊急時の対策については、AEDの設置に加え、消防署や近隣住民との連携が図られており、安心して暮らすことが可能となっている。管理者をはじめ職員は、利用者本位のケアが提供できるよう工夫を行っており、プロ意識の高さを感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は常にあげてあり、いつでも確認できる。新人職員にも施設内研修を行い理念に沿ったケアの実践を目指している。	職員会議の場面やケアの実践において困ったときに理念を活用している。その人らしい暮らしになるべく近づけるよう、理念を共有して利用者にとって何がベストかを常に考え実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方との関係は良好であり、いつも明るい挨拶を下さっている。また、地域の納涼祭では参加された入居者は楽しいひとときを過ごされました。	自治会のお祭りに呼ばれ参加している。傾聴ボランティアや大正琴、オカリナ等のボランティアの方との良好な関係が築けている。小中学校の職場体験も受け入れており、地域とのつながりが保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症やグループホームへの理解を頂けるよう、お話ししている。見学等もいつでもお受けしグループホームを知って頂くことができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会長、近隣の方、ご家族の参加のもと行っている。ご意見、ご要望にこたえられるよう、努力している。	事業所の行事と併せて運営推進会議が行われている。自治会長、市役所の職員、近隣の方の参加がある。会議では近況報告、災害対策や感染症についてのお知らせ等情報交換が行われている。会議での意見や要望はサービスに反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者は必ず運営推進会議に参加して下さっている。相談等にも乗って頂いています。	運営推進会議での情報交換をはじめ、台風や大雨の際には、市の担当者からけが人無の確認連絡があり、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が理解できるよう、研修を行い、話し合いをしている。玄関の施錠については国道に近いこともあり、ご家族にも理解して頂いている。	研修を行い、身体拘束についての理解を深めている。新人へは身体拘束の意味を分かりやすく伝え、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について理解を深めるため、研修を行い、事例を出して検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を十分理解しているとは言えない。また、活用されている方もいない為、研修等でしっかり勉強していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には充分説明を行っている。不安などをもたれないよう、わかりやすく説明するよう心がけております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払い時、面会時には心配事やご意見、ご要望などをお聞きし、職員会議などで話し合いを行っている。	面会時には必ず近況報告をするとともに意見や要望を聞いている。事業所へ来ることが難しい家族へは手紙と電話で確認している。意見や要望はケアに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行い、意見を言いやすい場を設けている。管理者は要望などを代表者に話す役割をしている。	毎月の職員会議において勤務時間の変更等運営に関する話し合いが行われている。会議以外でも管理者に対して意見や提案を言いやすい関係が築かれ、職員の気持ちをくみ取りながら反映することができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部への研修参加など推奨し、費用を負担してくれる。資格を取得すれば手当が付き、やる気につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修に取り組んでいる。外部への研修にも参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会会員として支部会、研修会に参加し、交流を図っている。当施設講習会に他のグループホームの職員に参加していただいたこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には情報を頂いた上でご本人とお会いします。ご本人の話を傾聴し、信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、要望を聞き不安を軽減できるよう、わかりやすい説明を行い要望に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のニーズに捉え必要な支援が行えるよう努めている。希望がある方には他のサービスも紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状況を把握し、その方に合った方法で支援を行い、出来ることはして頂き、役割、やりがいをもって頂けるよう、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望等、家族に伝えたり、毎月の様子や状況を月次で報告しています。いつでも面会可能なので居室で一緒に昼食を食べる方もいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ行かれる方がおります。知人の方が、顔を見に来たと気軽に来訪して下さいます。	友人の食事会に参加することや、馴染みの美容院へ行くこと等、本人の希望が実現できるよう支援している。知人が気軽に訪れることができる環境でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの思いを受けとめ、利用者同士の円滑な関係を保てるよう、全職員が心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には家族と連携をとり、最善を尽くしている。退居後を心配される家族にも相談に乗り、出来る限りの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望に出来る限り対応しケアにあたっている。 利用者の思いに気づけるよう、心がけている。	利用者の生活歴、趣味、家族構成、環境、性別、仕草等の情報をもとに、利用者の思いに沿ったケアを提供している。日常の関わりのなかで心の中にあるものに気付けるように心がけている。	職員が同じように利用者の思いに気づき、感じて、その方に合ったケアが提供できるよう、より一層のケアの向上を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生きてこられた時間、生活を把握し、職員間で情報を共有し、よりよいケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活習慣、リズムを大切にしながら本人の望まれる生活に近づけるよう、努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々利用者をみる声を聞き、気づいたこと、改めたいことを職員間で話し合い、より良い暮らしのためにカンファレンスを行っている。	日々関わるなかで気づいたこと等、カンファレンスや職員会議で意見やアイデアを出して計画作成している。作成した計画は、家族に説明して希望を聞き、訂正や追加をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、業務日誌に排泄、食事、水分量、バイタル、日によって変わる体調など記録し申し送り等で報告し、変化に気づけるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの要望に出来る限り応えるように努めている。希望される買い物、美容院など対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの来訪や演奏会の実施など楽しんで頂けるよう行っている。地元のお祭りにも毎年招待され、行かれた方はとても楽しく過ごされた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の定期的な往診を受けている。先生の指示により、他の科を受診されることもある。いつも適切な指示を頂いています。訪問歯科、訪問リハビリを受けている方もいる。	協力医は24時間対応可能であるため、本人及び家族は協力医の往診を受けている。眼科、訪問歯科を受けている方もおり、利用者の状況に応じた医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師、薬剤師と連携を図っている。当施設の看護師が出勤の際には皆様の情報を提供し相談し、良い処置等を教えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、看護師や相談員と連携を図り、早期の退院に向け支援している。お見舞いに伺うと「早く帰りたい」と言っておっしゃっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ医師と連携を図り、ホームで出来る範囲のことを行っている。	入居前に事業所の方針について家族と話し合いの場をもち、十分に説明している。入居後の変化については、本人と家族の意向を踏まえ、医師と連携を取りながらできる範囲で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を終了している職員が多い。AEDの使用方も再度確認している。急変時の対応も研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練には消防署、近隣の方立会いのもとに行っている。連絡網も見やすいところに掲示してある。近隣の方も協力的に声をかけて下さいと言って下さっています。	年2回行われる消防訓練は、消防署立会いのもと近隣の方も参加して行われている。食糧・水の備蓄は常に保たれている。近隣の方は協力的であり、災害時の体制は整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた対応をしている。入浴排泄介助は同性でと希望のある方にはそのように対応している。声掛けも常に注意し、行っています。	尊敬の意を込めて言葉をかけるように注意している。利用者が失禁した場合においては、否定せず、尊厳を傷つけないよう対応している。同じような言葉かけではなく、利用者に合わせて言葉かけ対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話にはゆっくり耳を傾け聴くように心がけています。また、言葉がうまく表現できない方の思いに気づけるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた食事提供、入浴介助を行っています。時間内で食事ということではなく、ゆっくりとご自身で時間をかけて召し上がっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カットを受けられています。また、ご自分の好きな衣類を選んで着ていらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様、食事を楽しみにされています。温かいものは温かく召し上がって頂くよう心がけております。行事や誕生会等、お好きな物を出すようにしています。	調理師免許を持つスタッフが中心となり、温かいものは温かく、季節に合わせた食事を提供している。苦手なものは代替えの食事を用意し、好みに合わせて提供している。行事食の提供があり、楽しめるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事メニューに努めています。その方にあつた対応でお出ししています。水分量も記録し、注意しています。あまり摂られない方にはゼリーを作ったり、工夫をしてお出ししています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた声かけ、見守り介助を行い実施して頂いている。義歯は預かり消毒し、清潔保持に努めています。訪問歯科による口腔ケアされている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に体調を留意し、個々の排泄パターンを把握し、その方に合った対応を実施しています。失敗時にはさりげない声掛けで対応しています。声掛け誘導で失敗が少なくなり、トイレでも排泄できるようになった方もいます。	トイレで排泄ができるように、個々の排泄パターンを確認し対応している。排泄の仕方、トイレの場所が分かりにくい方は、仕草などで職員が気づき対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表確認し、個々に合った対応をしております。身体を動かしたり、水分を摂取して頂いたり、医師の処方薬を服用されている方もいます。とても順調に排便みられている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴をお好きな方が多く楽しみにされています。ゆっくりと入浴して頂けるよう、心がけています。自立の方も危険防止の為、見守りを行っています。	利用者の要望に合わせて柔軟に対応できている。そのため一人ひとりゆっくりと入浴をすることができる。入浴剤やゆず湯等入浴を楽しむことができる工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に配慮し、いつでも自由に休息していただいています。夜間も安眠できる環境づくりを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬状ファイルをいつでも確認できるようにしている。体調不良時には協力医に相談し、より良い対応を心がけております。誤薬や飲み忘れのないよう、必ず確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いを率先して下さる方、レクリエーションを楽しんでいる方、その方の希望に添えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等に外出されています。お花見、お祭りなども参加されています。また、いつでもご家族と一緒に外出できるよう、対応しています。	散歩や買い物、お花見等、利用者の意向や状態に合わせて外出している。家族との外出はいつでもできるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして家族からお預かりしたお金は事務所で管理していますが、そのことを把握されている方は自分の欲しいものを買ってきてと希望されます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など希望されれば、対応しています。家族の声を聞かれると安心されます。年賀状、暑中見舞いなど毎年出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、安全のための配慮に努めています。皆さんの過ごすホールは季節感や明るさを大事にしています。温度、湿度にも留意しています。	常に清潔が保たれるようにしている。明るさや室温の調整への配慮も行っている。季節感を取り入れるため季節に合った貼り絵や花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな場所で過ごして頂くように支援しています。居心地の良い空間づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等、ご自分の家のように好きなように配置されています。一緒に掃除できる方はお手伝いして頂いています。	住み慣れた家で使用していた家具等を持ち込むことができる。テレビや仏壇を置くことや、写真を貼る等、本人が居心地良く居室を使用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアーバリアフリーとなっている。廊下、浴室、トイレ等十分な広さがあり、ゆったり安全に生活して頂けるよう、配慮している。		